

報告

日本技術士会北海道本部 地方委員会(オホーツク技術士委員会)
令和6年度 技術講演会・定期総会

能登半島地震における応急給水支援活動等の報告／ 第9期北海道総合開発計画

大澤 公 浩

1. はじめに

オホーツク技術士委員会では、社会貢献活動の一環として年2回、技術講演会を開催しています。

令和6年5月24日第1回目の技術講演会を開催しましたので、同日に開催した定期総会及び懇親会とあわせて報告します。

技術講演会は官公庁、建設業、コンサルタント業など、総勢53名という多数の参加者を迎え、開催することができました。



写真-3 司会の荒木幹事長



写真-1 技術講演会の様子1



写真-4 橘代表の開会挨拶



写真-2 技術講演会の様子2

2. 技術講演会

○日 時：令和6年5月24日(金)午後3時

○場 所：北見市民会館(北見市)

(1) 講演1：能登半島地震における応急給水支援活動等の報告

講師：オホーツク技術士委員会

技術士(上下水道部門)

高木 伸彰 氏

講演1は、当会幹事であり北見市職員である高木技術士が令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、被災地で行った水道水の応急給水支援



写真-5 高木技術士



写真-6 能登半島地震における応急給水支援活動

活動、また被害の様子について講演いただきました。

令和6年能登半島地震は元旦1月1日16時10分ごろ石川県能登半島にて最大震度7、マグニチュード7.6を観測した大災害でした。

新年早々、日本全土に衝撃を与えた地震で発生した断水は石川県で約11万戸あり、(公社)日本水道協会は発災後およそ2時間後に救援本部を立ち上げ全国の地方支部に対し応急給水支援活動を要請、翌日1月2日から給水支援活動を始めたそうです。

北海道支部も1月8日から珠洲市、七尾市にて活動を開始、第1陣は札幌市3台、恵庭市1台、室蘭市1台の計5台で支援を始め、北見市は第4陣として3.5t給水車と連絡車の計2台で給水支援活動を行ったそうです。

北見市の派遣期間は1月30日から2月7日の9日間、移動日もありましたので実際の活動期間は2月1日から2月5日の5日間、主に七尾市の恵

寿総合病院の受水槽に補水する作業を5人で行ったそうです。



写真-7 恵寿総合病院と倒壊家屋の様子



写真-8 給水支援の様子1

給水支援中も地震のおそれがあったため、有事の際は写真-8左側のマンション非常階段を使用し、津波などから避難しようと支援員同士で話し合っていたそうです。



写真-9 給水支援の様子2

写真-9は恵寿総合病院のステンレス製受水槽(容量150t)に給水している写真だそうです。

写真-10は七尾港の被害の様子と、停泊している海上保安庁の巡視船から補水を受けている状況だそうです。



写真-10 七尾港の地震被害の様子



写真-11 最終日の検問の様子

支援最終日、給水場所に向かう際、渋滞に巻き込まれたそうです。その原因が検問だったそうで、北海道警察応援部隊が検問しており、ボランティアの中に不審者が紛れ込んでいないか確認していたそうです。



写真-12 大阪府箕面市のトイレトレーラー

写真-12 は大阪府箕面市から被災地に貸与されたトレーラーで運搬できる4部屋洋式の移動式水洗トイレだそうです。

箕面市の応援職員によるとガバメントクラウドファンディングによる寄附で購入したそうです。

このような運搬可能な水洗式トイレは被災時、大変貴重になると思い写真撮影など情報収集したそうです。

次に移動中、支援中、休憩中などに確認できた被災地の被害状況なども講演されたので、その一部を掲載させていただきます。



写真-13 被災状況 1



写真-14 被災状況 2(噴砂の様子)



写真-15 被災状況 3



写真-16 被災状況 4



写真-17 被災状況 5



写真-18 被災状況 6 (ほぼ倒壊している家屋)

最後に災害対策本部は金沢市に設けられていたようですが、本部との顔合わせは初日のみで翌日以降の支援内容は各支援部隊にラインで一斉に PDF を送るといった方法で行っていたそうです。

場所の情報はグーグルマップを活用し、情報提供していたそうです。

対面の打合せを省略することで、このような大災害では大変迅速な支援につながるものが、支援活動を通じ、学べたそうです。

講演後の質疑応答ではこの度の給水支援活動を通じ、北見市で役に立てることはありましたかなどと質問があり、講師からは直接の回答にはならないかもしれないがとの前置きの後、2月あたりに給水支援を北見市で行う場合は寒冷地特有の寒さの課題があると回答されていました。

(2) 講演 2：第 9 期北海道総合開発計画について

講師：オホーツク技術士委員会

技術士(農業部門)

半谷 敬幸 氏

講演 2 は、当会副代表であり網走開発建設部長である半谷技術士より令和 6 年からおおむね 10 年間

の北海道開発の基本となる第 9 期北海道総合開発計画の概要について、講演いただきました。



写真-19 半谷技術士

講演は講師の略歴からはじまり、過去リクルート担当となるなど技術職以外、多様な経歴であることを話されました。特にリクルートにあたっては北海道開発局も技術者不足だということで、文系出身者にも募集をかけているそうです。

第 1 期北海道総合開発計画が策定されたのは、昭和 26 年であり、豊富な資源、日本の食糧対策を図るため前年の昭和 25 年に制定された北海道開発法が基になっているそうです。

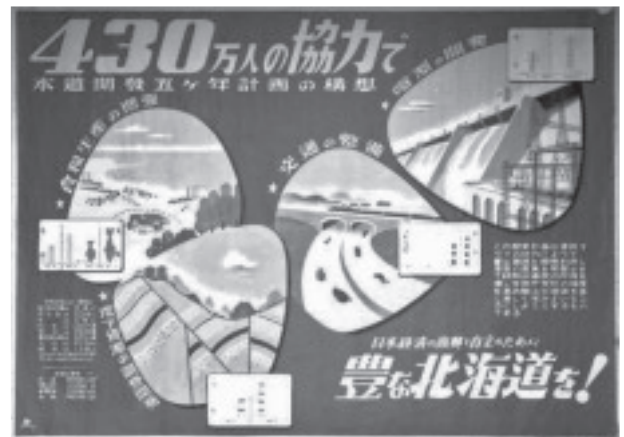


写真-20 第 1 期北海道総合開発計画

北海道開発の歴史は明治 2 年にロシアの南下政策に対抗するため、開拓使を設置したことが始まりだったそうです。

当時の北海道の人口は約 5.8 万人でしたが 12 年後の明治 14 年には約 22 万人、第 2 次世界大戦が終結した昭和 20 年には 352 万人と全国一位の人口にまでなったそうです。



写真-21 明治初期ごろのニシン漁の様子



写真-22 昭和 30 年代後半の赤平炭鉱の様子

北海道の資源・特性を活かし、地域の発展と国の課題の解決に貢献するため、特別な枠組により、国による総合的な開発を推進するため、北海道開発事業費が組まれているそうです。

本州のように公共事業費を都府県で分け合わず、北海道開発事業費は北海道だけで使わなくてはならないと制度化されており、また、国庫補助負担率も本州よりもかさ上げされているそうです。

これらはすべて北海道開発法が基になっているそうです。



写真-23 北海道総合開発の歴史【豊平川】



航行する石狩川(砂川地区・昭和43年頃)

水害対策実施後(石狩10砂川地区)

写真-24 北海道総合開発の歴史【石狩川】

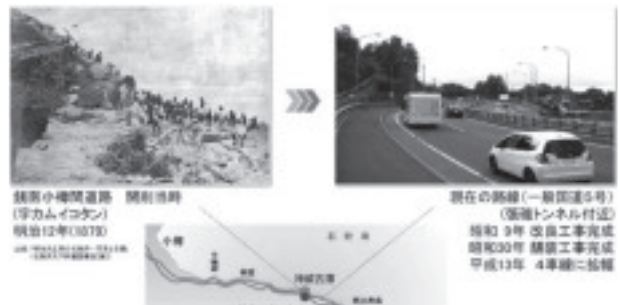


写真-25 北海道総合開発の歴史【国道 5 号線】

過去から現在へ至る北海道開発の様子が写真-23 から写真-25 を使いながら講演されました。

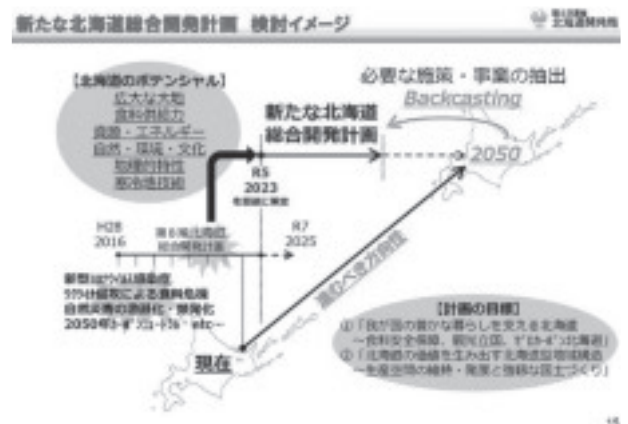


写真-26 第 9 期北海道総合開発計画の検討

新型コロナウイルス感染症のさらなる感染拡大、2050 年カーボンニュートラルに向けた国の政策の展開など、北海道開発を取り巻く状況に急速かつ大きな変化が生じているそうです。

このような変化をとらえ検討された第 9 期北海道総合開発計画は令和 6 年度からおおむね 10 年間を目標とした計画ですが、広大な土地、食料供給力、資源・エネルギーなど北海道のポテンシャルを活かした方向性については 2050 年といった将来を見据えたものとなっているそうです。

近年、東京圏などの都市圏からの転入が転出を上回っている市町村が、全国的に見られるようになって

ておりこのような田園回帰の動きや地方移住への関心をもっている若者も増えてきているそうです。

地球温暖化の進行が原因と考えられる高温障害による米や果樹の品質低下が各地で確認されており、栽培適地の北上化が今後進み、北海道では米の収穫量が増えたりリンゴなどの果樹の栽培適地になると言われているそうです。

物流 2024 問題への対応として共同輸送や中継輸送の実証実験を検討しており、オホーツク管内では白滝道の駅を輸送ポイントと活用できないか検討しているそうです。

ゼロカーボン北海道に対する公共事業への試行として、ハイブリッドバックホウの使用や現場監視カメラの電源を発電機からソーラーパネルに変えるなどした事業者へは工事成績点を加算するなど取り組みを行っているそうです。



写真-27 質疑の様子

講演後の質疑応答では北海道への移住者が増えていのはなぜでしょうといった質問があり、地域おこし協力隊がそのまま地方に移住する例や地域の魅力が上がってきたのではなどと回答されていました。

3. 定期総会

○日 時：令和 6 年 5 月 24 日(金)午後 5 時

○場 所：北見市民会館(北見市)

○議事内容：

- ① 2023 年度 事業報告
- ② 2023 年度 会計決算及び監査報告
- ③ 2024 年度 事業計画案
- ④ 2024 年度 会計予算案

定期総会は橘代表の挨拶から始まり、2023 事業報告、2023 会計決算及び監査報告、2024 事業計画案、2024 会計予算案が荒木幹事長の進行で進められ、出席者の拍手をもって同意を得られました。



写真-28 総会の様子 1



写真-29 総会の様子 2

また、総会では新規入会された羽石技術士、山本技術士、筒井技術士補、半谷技術士から挨拶をいただき 2024 年度定期総会を終えることとなりました。

4. 懇親会

定期総会後、市内の飲食店に移動し、会員の親交を図る懇親会を開催しました。

司会進行は荒木幹事長が務め、島田副代表の乾杯で懇親会は始まりました。



写真-30 島田副代表の挨拶



写真-33 懇親会の様子 3



写真-31 懇親会の様子 1



写真-34 懇親会の様子 4

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置付けられてからおよそ 1 年たちました。

ひと時の懇親会自粛はだいぶ過去のものになったかのように会員同士、日ごろの近況や今後の技術的動向に関し、大いに話し合い盛り上がりしました。



写真-32 懇親会の様子 2

5. おわりに

昨年度から対面式で技術講演会を開催し始め、徐々に参加者も増えてきました。

講演内容が被災地での支援、これからの北海道開発の基本といった地域に関わる重要なテーマであったこともあり、参加者は真剣な面持ちで聞いていました。

これからも当会では、多く方に技術講演会に参加していただき、技術士への理解促進と社会貢献活動に取り組んでいきたいと考えています。

大澤 公 浩 (おおさわ きみひろ)

技術士(建設部門)
遠軽町経済部建設課

